

<大雪クリスタルホールについて>

- ① 大雪クリスタルホールには、音楽堂だけではなく博物館や各種会議室も整備されている。

博物館については、科学館との絡み等もあるので、また別な機会に話をしたが、大雪クリスタルホールとしての、平成22年度の施設管理及び事業に係る収支について示せ。

平成22年度の大雪クリスタルホールの施設管理に係る決算額については、大雪クリスタルホール施設管理費で、

歳出 130,861,197円

歳入 27,506,111円

(差額 △103,355,086円)

音楽堂自主文化事業費で、

歳出 8,466,435円

歳入 5,246,400円

(差額 △3,220,035円)

旭川ウィーン国際弦楽セミナー開催支援費で、

歳出 1,140,000円 となっている。

- ② 決算書上は、施設単独会計ではないので、なかなか見えにくいですが、平成22年度決算において、施設管理費で1億円以上、自主文化事業で300万円、支援金まで含めると約1億1千万円もの歳入不足とのことである。

あれだけ新しく、大きい施設であるのに、閑散とした光景が目につくとの声も聞こえるが、施設利用率はどのようになっているか。

平成22年度のコンサート室の利用率については、57.5%、また、主な会議室として、大会議室の利用率については、46.3%となっている。

- ③ 決して高いと言えるような利用率ではないと考える。

旭川市では同じような機能を持つ施設として市民文化会館があり、市民の間でもやはり市民文化会館の方が定着しているものと考ええる。

市民が何か会議をやろうと考えた時に、料金的な問題もあると思うが、「クリスタルホールの会議室を使おう」という発想に至らないのではないかと感じる。

例えば、施設のPRも兼ねて、旭川市自らが、市主催の会議等でもっと利用するなどの取り組みもあるのではないかと考える。

平成22年度において、社会教育部以外の部署で、どの程度大雪クリスタルホールを使用しているのか。

また、市主催の会議等での大雪クリスタルホールの積極的利用について、併せて見解を伺う。

平成22年度の社会教育部以外の部署における、利用件数は、8件となっている。

市有施設の有効活用のためにも、利用促進は重要なことと受け止めており、今後、市役所内部における利用についてもPRにも努めていきたいと考えている。

④ 大雪クリスタルホールも、開館から18年が経とうとしている。その運営方法についても、そろそろ見直しをかけるべきではないかと考える。

全国的には、このような文化施設について指定管理者制度の導入が進んでいるものと認識をしているが、市教委ではどのように認識しているか。

また、文化会館も含め文化施設の運営管理における指定管理者制度の導入について、市教委の見解を伺う。

平成15年に指定管理者制度が施行されてから、全国の文化ホール等においても指定管理者の導入が進んでおり、社団法人全国公立文化施設協会の調べでは、平成22年12月現在、全国2,180の施設の内、1,080施設、率にして49.6%の施設で指定管理者を導入しているという結果がでている。

ホールの管理運営を指定管理者に行わせることについては、単に経費の縮減という面だけでなく、民間のノウハウを導入することで専門性を発揮していくという側面もある。

一方で、直営に戻すという動きがあったり、指定管理者制度導入施設では自主事業にかかる費用の削減幅が大きいなどの傾向も現れている。

いずれにしても、指定管理者制度を本市のホールの管理運営に導入することで利用者の利便性の向上に反映させていくことができるのか、市としても検討を進めていきたいと考えている。